

公立大学法人 大分県立芸術文化短期大学  
平成20事業年度の業務実績に関する評価結果

(全体評価)

(大項目評価)

平成21年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

## 1 全体評価

### 評価結果と判断理由

#### 評価結果

全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している。

#### 判断理由

○大項目ごとの評価は、「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」、「Ⅴその他業務運営に関する目標」のいずれの項目も、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

○各大項目の特筆すべき事項の代表的なものとしては「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」の項目において、「サービ斯拉ーニング」による学生を中心とした地域連携活動を促進したことや自治体等と連携協定を締結し、地域の教育研究拠点として貢献していること、積極的な学生募集活動により志願者が増加したこと、4月1日に設置した広報室を中心に効果的な大学のPR活動を実施したことなどがあった。

また、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」の項目において、学内で協力して入学生確保対策を実施したことにより自己収入を増加させたこと、「Ⅳ教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標」の項目において、広報室を設置し積極的に大学情報を発信したことなどがあった。

○以上の大項目評価を考慮して全体評価の結果としては、「全体として年度計画及び中期計画を順調に実施している」とした。

#### <委員会からのコメント>

- ・大分県立芸術文化短期大学は、地方独立行政法人化3年目においても、中期目標の達成に向けた年度計画を着実に実行しており、2年制認定専攻科修了生の学位取得のための学生指導や積極的な学生募集活動により多くの志願者を確保するなど、順調に取組が進められている。
- ・2年制認定専攻科修了生の学位取得者については、平成21年度も継続して成果を出していただきたい
- ・中期目標期間（H18～H23）は本年で半分が過ぎたが、今後も中期計画の達成と地域に愛される大学づくりに向け、更なる取組を期待する。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等の 質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の改 善及び効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の改 善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検・評 価並びに情報提 供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務運 営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

## 2 大項目評価

### I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり

#### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、156項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、地域社会に貢献する活動を行う「サービスマーケティング」の内容の多彩化・高度化、演奏会や自治体等との連携による地域貢献や積極的な学生募集活動による志願者の増加、広報室を設置し、効果的な大学のPR活動を実施したことなど、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目  
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。  
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。  
(I-1-(1)ア(ア) a)
- 共通科目として「造形入門」と「音楽の魅力」を開講  
・芸術系と人文系の学科からなる本学の特徴を生かし、学生の芸術文化の素養を高めるため、共通科目として、「造形入門」と「音楽の魅力」を開講し、多くの学生が受講した。  
(I-1-(1)ア(ア) f) 【2】
- 「地域社会特講」と「サービスマーケティング」を通して地域社会の理解と地域づくりへの参加を促進  
・情報コミュニケーション学科を中心に、地域社会の理解のために様々な分野から講師を招く「地域社会特講」を開講した。また、地域社会に貢献する活動を行う「サービスマーケティング」において、「あしなが学生募金」や大分市鶴崎の「SAEMON 23」に参加し、中核的な役割を果たすなど、プログラムも20を超え、内容も多彩化かつ高度化した。  
(I-1-(1)イ(イ) abc) 【2】
- 音楽科における演奏会等への学生の参加促進と地域社会における演奏活動の充実  
・「定期演奏会」、「芸短コンサート」（計6回）、「地域巡回演奏会」（日田市・九重町）、「県人演奏会」（計4回）、「修了演奏会」及び「卒業演奏会」等を開催した。  
(I-1-(4)イ(エ)) 【2】
- わかりやすい入試情報の提供  
・入試説明会、高校訪問において、大学案内、DVDや学科独自の紹介パンフレットなどを使用して高校生・保護者に分かりやすい説明に努めた。  
(I-1-(4)ウabcde) 【2】

○大学の知名度向上のため、広報室を設置し効果的な大学のPR活動を実施  
・広報室を設置し、専任の職員を配置するなど全学一体となった体制を整備し、効果的な大学のPRに取り組んだ。また、本学を広くPRするため、10月から12月の間に「芸短フェスタ」として、「天満敦子バイオリンリサイタル」など33の行事を開催した。

(I-1-(4)エc)【2】

○大学説明会、高校訪問の強化と在学生による出身高校への芸短進学報告の実施  
・全学科において、大学説明会と高校訪問を強化した。平成20年度は、県内外の48箇所の大学説明会に参加するとともに、52校の高校訪問を行った結果、平成21年度入試の志願者数は831人となり、平成20年度志願者数750人を81人上回った。また、国際文化学科では、夏休みに在学生が出身高校へ芸短進学報告をする「国文大使派遣活動」を実施した。

(I-1-(5)イ(ア)abc)

○インターンシップ単位化後の指導体制の確立と受入企業の拡充  
・国際文化学科と情報コミュニケーション学科では、学生の就業意識を醸成するため、インターンシップを単位化し指導体制を確立した。なお、平成20年度は57企業から144人の受け入れがあった。

(I-2-(2)ウ(ア))

○教員の自律的・主体的な点検に基づく教員評価制度を策定  
・教員の活動意識・意欲及び能力の向上と活性化を図る目的で、教員の自律的・主体的な点検に基づく教員評価制度を策定した。

(I-3-(1)ア(イ)bc)

○各自治体等との連携強化による出前講座や演奏会の実施  
・日田市、九重町の「地域巡回演奏会」をはじめとして、大分県や各自治体等との連携を強化し、出前講座や演奏会などを実施した。

(I-3-(1)イ(ア)abc)【2】

○連携協定を締結している自治体への貢献  
・既に連携協定を締結している大分市や由布市、また、新たに相互協力協定を締結した竹田市と協力して、地域の課題解決のため、「岡城復元CG映像制作」や「蘇る宗麟の栄華(ハイビジョンCG)制作」などを行った。

(I-3-(1)イ(イ))【2】

○民間企業やボランティア団体等との連携  
・民間企業への講師派遣やインターンシップを実施した。また、非営利組織、ボランティア団体等と協力し、「あしなが学生募金」、「SAEMON23」、「上野の森アートフェスティバル」などに参加した。  
また、財団法人大分県文化スポーツ振興財団と連携して、「iichikoグランシアタ・ジュニアオーケストラ」の設立・運営に協力した。

(I-3-(2)ア(イ)d)

○地域演奏会をはじめ、小・中学生を対象とした地域交流の推進  
・「地域巡回演奏会」(日田市・九重町)や由布市阿南小学校における「弦楽四重奏演奏会」など小・中学生を対象とした地域交流を推進した。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
教育	121(12)			114(7)	7(5)
研究	13			12	1
社会貢献	22(5)			18(3)	4(2)
合計	156(17)			144(10)	12(7)
ウエイト考慮 後の合計	173			154	19

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、156項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価(計画どおり進んでいる)となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 2年制の認定専攻科は希望者も多く、設置したことは成功だったと思われる。
- 教員の研究活動結果をホームページに掲載するに当たっては、教員間の刺激や情報の共有という意味からも、教員ごとに分かりやすく掲載してもらいたい。
- 外国人留学生については、これまで実績がないようだが、入試方法を見直すなどして、ぜひ実績をつくっていただきたい。

## Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目  
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。  
(Ⅱ-2-(2)a)
- 新たな教員評価制度を策定し、評価項目・評価基準を明確化  
・教員評価制度については、評価項目・評価基準を明確にするため、これまでの「年間活動シート」及び「教員自己評価シート」を見直し、評価制度の改善・充実を図った。

#### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
運営体制	5(1)			5(1)	
人事の適正化	7			6	1
合計	12(1)			11(1)	1
ウエイト考慮 後の合計	13			12	1

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、12項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし
------

### Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

#### (1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

#### (2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、学内で協力して入学生確保対策を実施した結果、自己収入が増加し、計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

#### 【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目  
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。  
(Ⅲ-2-(2)a)
- 入学者査料、入学料、授業料等の安定した自己収入の確保
    - ・広報室、入試委員会と協力し、知名度向上対策や高校訪問等の入学生確保対策を実施した結果、受験者、入学者ともに増加し、自己収入は昨年度に比べて3,800万円ほど増加した。

#### 【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
事務効率化・ 経費抑制	4			4	
外部資金等の 獲得	2			1	1
資産の適正管 理・有効活用	3			3	
合 計	9			8	1

ウエイト付けした項目はない。

- ※小項目評価の集計結果では、9項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

#### (3) 評価に当たっての意見、指摘等

- 科学研究費補助金の申請件数を増やすことと、その内容を採択されやすいようにレベルアップするよう努力してもらいたい。



IV 教育、研究、社会貢献及び組織運営の状況に関する自己点検・評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- 小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。
- 下記の「大項目評価に当たり勘案した事項」に示すように、広報室を設置し、広報誌やホームページやマスコミを使った情報提供に積極的に取り組むなど計画以上の成果を達成した事項が見受けられた。
- 小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。
- 以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

- ※特筆すべき項目  
小項目評価がⅣ（上回って実施している）の項目は、次のとおりであった。  
なお、【2】は公立大学法人が小項目の重要性等を考慮して行ったウエイト付けである。
- (IV-2b)【2】
- 広報誌や大学ホームページによる広報とマスコミへの情報提供
    - ・広報室を設置し、大学の活動状況を広報誌、ホームページに掲載するとともに、定期的かつ随時にマスコミリリースを行った結果、メディアを通じて多くの記事やイベント情報が県民に紹介された。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	I 実施して いない	II 十分に実 施できて いない	III 順調に実 施してい る	IV 上回って 実施して いる
自己点検・ 自己評価	4			4	
情報公開	3(2)			2(1)	1(1)
合計	7(2)			6(1)	1(1)
ウエイト考慮 後の合計	9			7	2

(注) 1 ( ) は、ウエイト付けした項目数である。

2 大項目評価は、ウエイト考慮後のⅢ及びⅣの割合により決定する。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。ウエイト付けした項目を考慮しても同様の結果である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

○小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。  
 ○小項目評価の中にⅡ（十分に実施できていない）又はⅠ（実施していない）の評価の項目は認められない。  
 ○以上のことから大項目評価としては、A評価（計画どおり進んでいる）が妥当であると判断した。

【参考：大項目評価に当たり勘案した事項】

特筆すべき項目や遅れている項目はない。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象項目数	Ⅰ 実施して いない	Ⅱ 十分に実 施できて いない	Ⅲ 順調に実 施してい る	Ⅳ 上回って 実施して いる
施設・設備の 整備・活用					
安全管理	4			4	
人権啓発推進	3			3	
合 計	7			7	

ウエイト付けした項目はない。

※小項目評価の集計結果では、7項目のすべてがⅢ又はⅣの評価であるため、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

特になし